

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	観光型ホテル （経営者）	来客数の動き	・今月は関東からの客が多数あり、昨年以上の売上が 上がった。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	来客数の動き	・気候も良くなり来客数が昨年にも増して伸びてい る。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・飲食店関係が4月に入り少し良くなってきている。 全体的に客の出入りが多くなってきた。
		百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・客の消費に対する意欲はおう盛であった。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・昨年は非常に売上が良かったが、それに比べても今 月はそう悪くないので上向きである。
		スーパー（総務 担当）	お客様の様子	・衣料品、住居用品、食品とも昨年を上回る売上とな り、特に衣料品、住居用品が好調である。
		コンビニ（エリ ア担当）	単価の動き	・新たな客層を獲得するため、新入生、新社会人キャン ペーン等を実施したが効果としてはあまりなかつ た。しかし前年比100%の売上を確保した。特に客単 価が上昇しており、少しずつではあるが景気回復の兆 しが見えている。
		コンビニ（販売 促進担当）	販売量の動き	・量販店は前年比0.8%減、コンビニエンスストアが 前年比0.05%増、ローカルスーパーが前年比0.6%の 減少となった。3か月前と比べても前年を上回ってはい ないが、少しずつ改善はしている。
		衣料品専門店 （店員）	お客様の様子	・ここ数年セール待ちの客が多く、必要な物をセール 時期に求める客が多かった。しかしこの春は正価販売 品を求める客が多く、来店数も頻度も増えている。
		衣料品専門店 （総務担当）	来客数の動き	・紳士服、紳士カジュアルの売上が前年比38%の大幅 増、ヤング婦人服が前年比7%増、ミセス婦人服も前 年比6%増と好調である。呉服、宝飾品を含めて全体 で前年比3.5%増で推移している。来客数も前年比 20%以上と多い。
		家電量販店（総 務担当）	来客数の動き	・客の年齢層が幅広くなり、購入単価も上昇しつつあ る。
		その他専門店 〔ガソリンスタ ンド〕（統括）	販売量の動き	・燃料油の元売仕入価格は上昇を続けており、小売価 格も上昇しているが、出荷量は昨年と比べて変化がな い。5月も元売仕入価格は値上予定なので、4月末の 駆け込み需要が少し発生する。客は高くなった商品を 購入している感はあるが、しかたないという表情であ る。
		高級レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・予想より来客数が多く、活気づいている。
		一般レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・新入生の若い女性客が増えた。客単価も若干上がっ てきている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・全体的に売上也伸びており、今までになく良く動い ている。また、会社関係、特に夜の接待も多くなっ ている。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・前年比において発売額の下げ止まりの傾向が見えて おり、今月の発売も昨年に比べ同程度の水準を保って いる。
設計事務所（所 長）	来客数の動き	・消費税が将来的に上がることを見据えて、住宅や店 舗を変えようかという相談がきている。		
変わらない	商店街（代表 者）	来客数の動き	・中心商店街は大型店、スーパーマーケットが全部な くなり、人通りが大変悪い。	
	商店街（代表 者）	来客数の動き	・春の新入学、フレッシュマンセールを実施したが、 来客数は少なかった。	
	商店街（組合職 員）	それ以外	・市内郡部の商店街のスタンプ事業の売上が激減して いる。加盟店も減少し、スタンプ事業の存続が非常に 厳しい状態である。	
	一般小売店〔青 果〕（店長）	それ以外	・県内で消費される物に関しては相場が立たないよう な状況であるが、県外に出荷される特産品、ピーマ ン、きゅうりについては高値がついている。宮崎の消 費分に関してはなかなか上がらないので、3か月前と そう変わらない。	
	一般小売店〔鮮 魚〕（店員）	来客数の動き	・来客数は伸びず、客単価が変わらないため、売上が 落ちている。	

百貨店（営業担当）	お客様の様子	・全店で割引催事をやめ、正価販売品の強化策を取り、重点商品、話題商品を展開したが、客の反応は今ひとつであった。強化による正価販売品の伸びはわずかであった。
百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・初夏物の動きが低調であった。来客数は増加の傾向にあるが、消費の二極化もあり、質は大都市圏へ、価格は最寄スーパーへと地方百貨店のあり方が問われている。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・客単価や販売量は、以前に比べると無駄なものを買わなくなっている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・衣料品の動きが冬からずっと悪く、閉店セールで売上が上がったが、春物衣料は今も苦戦中である。食料品は大型商業施設の影響で前年比95%がやっとなで、全体的には前年比90%と厳しい状況である。
スーパー（店長）	販売量の動き	・食品も果物を中心に良くないが、衣料品が特に悪い。
スーパー（店長）	単価の動き	・客単価、商品単価とも前年を下回っている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・平日の来客数は、ほぼ前年並みであるが、日曜日の来客数が減少しており、厳しい状況である。
スーパー（総務担当）	単価の動き	・客単価の動きが前年比3～5%程度上昇している。特に、衣料品関係の客単価の伸びが良い。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・前月の全国チェーンのスーパーマーケットに続き、商圈内に2店舗目のオープンがあった。加えて地場のドラッグストアと食品ディスカウントストアがオープンしており、集客力が低下し、併せて客単価も下がっている。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・高価な新商品を発売しても、それなりの付加価値がついていないと販売数に結びつかない状況である。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・特に変化は感じないが、定年を迎えて「特に洋服が必要なくなった」と言う客が出てきた。その子供たちの年代は若いので、客にはならない。
家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・家電関係で、新製品の薄型テレビが好調であるが、反面普及率の高い洗濯機、冷蔵庫の売上が今一つである。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・販売量が今年に入って伸びると予想していたが、思ったように伸びていない。従って景気が良くなったという実感はない。
住関連専門店（経営者）	単価の動き	・消費の動きはそこそこあるが、客単価が相変わらず低い。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・4月半ばまではまあまあ良かったが、後半がゴールデンウィーク前ということもあり、会社の接待関係が少なくなり来客数が伸びなかった。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・前年並みの売上が確保できている。
その他飲食〔居酒屋〕（店長）	お客様の様子	・客が引越越し、転勤、移動などにより来客数が少ない。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊者の動向は、直近での予約が多くなっている。宴会・レストランも同傾向である。
都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・安い単価が定着しており、なかなか単価の上昇が望めない。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークは日並びの良さで昨年の地震による減少から前年比110%の伸びであった。東南アジア、ヨーロッパ、近場の宿泊の動きが良い。
タクシー運転手	お客様の様子	・昼間の買物客はそう変わらないが、歓楽街がかなり落ち込んでいる。まだ悪化するような状況である。
タクシー運転手	お客様の様子	・昼のタクシーの動きがだんだん悪くなっているが、夜はあまり変わらない。
タクシー運転手	単価の動き	・人の流れは若干増えてきたが、単価が上がらないのでほとんど変わらない。
通信会社（管理担当）	来客数の動き	・来客数が落ち着いてきた。
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・日並びの良いゴールデンウィークは、宿泊施設やゴルフ場で昨年より予約が増加している。しかし、それ以外の時期が伸びていないので、前年並みの推移である。

	観光名所（職員）	来客数の動き	・入園者数は前年を上回ることができたが、特に良いという事はない。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・春の繁忙期で、客が動く時期であるが、予定していた数字、季節指数を見ても、右肩上がりにはならない。3か月前から大体同じような流れである。
	美容室（店長）	来客数の動き	・売上が悪くなる時期であるが、来客数自体は大きな変化はない。
	設計事務所（代表取締役）	お客様の様子	・建設業界は、住宅やマンションなどの建設業者では、受注増がみられるものの、全体的に仕事量が減っている。福祉関連のサービス事業も、制度の改正により事業単価が低く見直されたことから、事業者としては経営的に厳しくなっている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・まだまだ郊外店に客が流れており、中心市街地の来客数は少ない。
	百貨店（営業担当）	競争相手の様子	・大型商業施設がオープンして1年が経つが、中心商店街ではシャッターが降りた店が増えており、その後も新たな店が開店するようなことはない。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・今月は動くはずの春物、夏物衣料が非常に低迷した。高額品も前年より売れているが、その他のところが非常に厳しい。従って全体としては苦戦している。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・天神地区では、前年に比べ百貨店への来客数が減っている。天候の影響もあるが、高額消費は堅調なものの、ファッションやリビング用品の動きは鈍い。
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・バーゲン比率が上がり、定価商品が売れなくなっている。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・今月の売上高は前年比97%、来客数は前年比98%で2か月連続で前年割れをしている。部門別で見ると紳士服関係、家庭用品関係が悪く、婦人服、子供服関係が昨年並みである。店頭の様子や隣の百貨店の流れを聞いても良くないという状況である。
	百貨店（業務担当）	販売量の動き	・春夏にむけて季節衣料を中心に身の回り品等の動きが、本格化すべき時期にあるものの、商品の動きに力強さがない。紳士は良いが、これまで下がり続けた反動増とも言える。総じて婦人物、子供関連の商材が低調である。
	スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は横ばいながら、客単価の伸びが落ちてきている。今現在前年比98%と、なかなか消費が伸びていない。特に食料品関係が動いていない。
	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・全体的に来客数、販売額ともに低調である。また、衣料品の動きが悪い。
	衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・4月初めは、入卒商品の駆け込み需要などで単価も高く好調だったが、中盤からカジュアル衣料が伸び悩んだ。価格にシビアな様子で、気に入ったものだけを単品で買うケースが多く見受けられた。
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・さらなる競争の激化が売上や景気を圧迫している現状があり、これからますます厳しさが増していく。
	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・単価の安い1,500CC以下の車の販売が70%位を占め、利益が出ない。
	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前半は結構良かったが、後半にかけて来客数が減少している。
	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前半こそ入学入園のお祝い等や歓送迎等が例年並みにあった。しかし、後半の週で通常伸びてくる給料日後に、全く来客がなく、ゴールデンウィーク前で少し落ち込むにしても、ひどい落ち込み具合であった。
	通信会社（業務担当）	来客数の動き	・4月は需要期のピークが過ぎ、近隣への競合店舗の出店及び改装もあり、来客数が目に見えて減少し続けている。
美容室（経営者）	お客様の様子	・来客数の動きにも変化があり、客滞在時間も長くなっている。	
悪くなっている	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・来客はますますあるが、購入につながらない。春物商戦も悪く、初夏物衣料も売れていない。
	高級レストラン（専務）	来客数の動き	・来客数がずいぶん減り、昨年末の予想よりもどんどん悪くなっている。
企業動向関連	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今まであまりなかった新製品の仕事が増えてきている。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量は確実に増えている。マンションの物件も耐震強度問題があり落ち込むかと思われたが、ホテル、マンションともに、ほぼ計画通り着工している。

	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規受注は、例年この時期は期待薄である。部品製作、型修正でこの時期をしのいでいる状況である。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は非常に多くなってきており、生産能力のある企業の動きは良い。	
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・取引先である飲料メーカー各社の動きを見ると、かなり荷動きが活発なところもある。業界として全体的に上向きで物が良く売れている。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の売上、特に大手の下請の製造業の売上が伸びている。	
	新聞社（広告）	取引先の様子	・取引先の商業施設の様子を見ていると、北九州地区の消費動向も若干ではあるが上向いてきた。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・3月度の決算が4月から上がってきているが、押しなべて昨年よりも数字的には好調である。関係先の表情もおおむね明るい。	
	その他サービス [物品リース]（役員）	受注量や販売量の動き	・契約額が通常4月は3月決算期の反動で急激に落ちるが、今年は落ち込みが小さく前年同期を上回る勢いで推移している。	
変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・春先の需要を期待していたが、4月は昨年と比べて若干厳しい。全体需要が落ち込んで一般鶏肉はかなりの在庫になっている。原因としては生産増に対して、消費が落ち込んでいるのに加え、外国からの加熱加工品の輸入増もある。	
	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・4月に入ってから販売価格の推移は堅調である。原因としては、3月から続く多雨による日照時間不足で収量が減少した事が考えられる。併せて、強風の日が多かったので露地物に影響が出ている。	
	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注が伸びている工場が多い。その面では安定しつつあるが、単価の面ではまだ安い。原油価格が高値を更新しているのも気になる点である。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	それ以外	・製品の動きはあるが、資材関係の値上がり、特に燃料であるガスの値上がりが厳しく、それが製品に転嫁することができない状況である。経費だけが掛かりすぎて、売上がそれに伴わない。また、現在陶器市をやっているが、昨年と比べて出足、売上が小口化している。	
	窯業・土石製品製造業（取締役）	取引先の様子	・全体的には景気が良くなりつつもあるが、やはりメーカーとしては原油の高騰、資材の高騰をカバーできないという状況があり、最終的には現状のまま推移している。	
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・活発な荷動きではなかった。	
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・資金需要が低迷している。	
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・銀行の貸出の状況についても前月と大きく変わったところもなく、新規需要がない。しかしながら、個人向けに対しては、長期金利の上昇傾向もあり、多少問い合わせ等が多くなっている。	
やや悪くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・輸入の鶏肉なり、加工品が入っており、生産量も潤沢で価格が下がってきている。今後の消費についても低価格志向でなかなか厳しい状況が続く。	
	農林水産業（営業）	受注価格や販売価格の動き	・不需要期に入り市場相場が下がっている。よって物の価格も損をしながら売らなければいけない状況になっており、景気としては下向きである。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・電子部品関連並びに半導体関連等は総合的な面で、大手の動きが非常に鈍くなり、一服感が出ている。また製造業でも、やはりここにきて停滞気味である。	
	建設業（総務担当）	競争相手の様子	・地元でも名の通った会社が、経営不振で倒産した。	
雇用関連	悪くなっている	-	-	
	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・昨年の下期から大きく伸張している。最近では仕事よりもスタッフの確保が難しく応募が少なくなっている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・長期の派遣需要が増えてきている。

	新聞社〔求人広告〕(担当者)	採用者数の動き	・求人広告の引き合いが増加してきた。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・平成18年2月の新規求人数は、前年比23.4%増となっており、有効求人倍率は1.26と連続9か月の上昇となった。
	職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・地域の会議所のアンケート調査でD Iが全業種ともマイナスであったが、マイナス幅が縮小しており、売上、消費、あるいは先行きに期待が現れている。
	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・求職者数の減少が続いている。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・欠員補充より増員の求人が増加している。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・12月まで前年比でマイナスであった新規求人数が1月以降プラスに転じている。
	民間職業紹介機関(支店長)	雇用形態の様子	・期間限定の一般的派遣社員需要の堅調さもさることながら、正社員採用(職業紹介)及び紹介予定派遣需要が急増している。
変わらない	人材派遣会社(社員)	採用者数の動き	・3月まで良かった雇用事情、採用希望が4月に入り停滞している。新卒採用を多くの企業が行ったため、中途採用には波及していない現状である。
	求人情報誌製作会社(編集者)	採用者数の動き	・今年に入り、企業の採用が一段と厳しくなっている。特に、フリーターの求人が採用難に陥っている。大手コールセンターの福岡進出による雇用の増大、時給単価の上昇などが影響したものと考えられる。地元の中小企業への影響が心配される。
やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕(担当者)	周辺企業の様子	・北九州空港の開港など3月末までに大きな地域イベントが終了し、反動で4月の企業の活動が鈍い。
悪くなっている	-	-	-